

正月を迎えるための煤払い

フリーランスライター 藤木 順平

『ステイホーム』で退屈まぎれに家じゅうを掃除して、「暮れの
大掃除はもういいや」というご家庭
も多いことだろう。しかし、神社
仏閣などではまた話が違う。

線香や抹香の煙や一年のほこり
が、天井やご本尊に煤(すす)と
なってこびり付く。これを払って
きれいにするのが「煤払い」だが、
冬の季語にもなっている。使う道具
は主に竹を束ねたもので、有名な
寺院などの煤払いの様子は、暮れ
の風物詩としてニュースなどで
見た人も多いと思う。

煤払いは12月13日に行くことにな
っている。この日は「正月事
始め」といって正月を迎える準備
をしようという日なのである。
暮れの13日の夜、両国橋の上で

俳人の宝井其角は、煤払いの竹の
商いを終えた大高源吾(赤穂の浪
士)とばったり出会う。そこで、
師匠の其角は「年の瀬や水の流れ
と人の身は」と発句した。それ
を受け、源吾は「あした待たるる
その宝船」と返句した。源吾と
別れた其角は返句を二度三度つぶ
やく。源吾の身の上を知る其角は、
翌14日の「討ち入り」を知ること
となる。

『義士銘々伝』のひとつで、作り
話ではあるが、こういう作り話:
好きだなー!

【筆者紹介】

藤木順平 (ふじき・じゅんぺい)
フリーランスライター。日本
笑い学会会員。

インターネット・セミナーをぜひご覧ください

STEP1

函館法人会のトップページへ
<http://www.hakodate-hojinkai.or.jp>

STEP2

バナーを
クリック!



映像と音声による本格的セミナー

STEP3

会員IDとパスワードを入力

会員ID **0019** パスワード **9369**

★おすすめセミナー

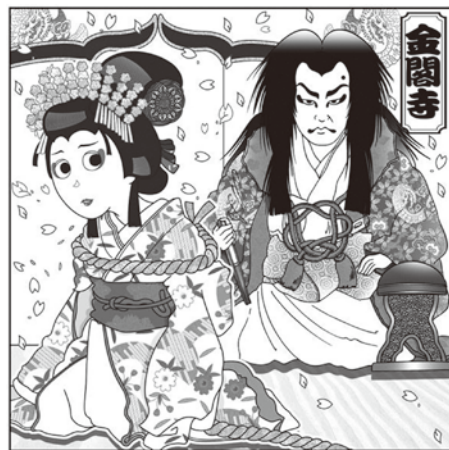


改正労働基準法
対応策



現在545タイトルのセミナーを法人会会員は無料でご覧いただけます

「作者紹介」
神谷一郎(かみや・いちろう) 専修大学法学部
卒業後、漫画プロダクションを経て漫画家に。
現在はフリーランスのイラストレーターとして、
雑誌・広告・水彩画挿絵等で活躍中。



●右の絵と左の絵には相違点が7か所あります。
見つけられますか? (答えは11頁にあります)

7つの間違い探し

さらに詳しくはWEBへ



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

イータックス

検索